令和６年度第１２回　感染症発生動向調査協議会

令和７年３月１９日
月番：大西秀典

１　前月の感染症発生動向について（2025 年第 6 週～9 週・2 月）

＜全数把握対象疾患＞

・ 一類感染症については、発生報告は無い。
・ 二類感染症については、結核は今月の報告数は 24 例で、2019 年の同期累計報告数 52 例、前年の同期累計報告数 41 例、本年の累計報告数が 48 例となっており COVID-19 流行以前の発生数に近づいている。従来通り 60 歳代以上の高齢者と、20，30 歳代の若年層の 2 峰性に分布している。
・ 三類感染症については、腸管出血性大腸菌感染症の発生報告が 1 例あり、O157 であることが確認された。
・ 四類感染症については、E 型肝炎が 1 例、つつが虫病が 1 例、マラリアが 1 例、レジオネラ症が 4 例報告されている。
・ 五類感染症(性感染症以外)については、アメーバ赤痢が 1 例、ウイルス性肝炎（A 型、E 型を除く）が 1 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症が 3 例、侵襲性肺炎球菌感染症が 6 例、水痘(入院例に限る)が 2 例、そして百日咳が 25 例報告されており、特に 10 歳代での百日咳の発生数増加が目立つ。

＜定点把握対象疾患＞

・ 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数が 24.9 となっておりまだまだ発生数は多いものの、全国推移と同様に岐阜県内でもゆるやかに減少傾向である。
・ インフルエンザの定点当たり患者報告数が 7.6 となっており、まだ発生はみられているものの、前月比 7.0%と急激に流行が減衰している。
・ RS ウイルス感染症は県全体での発生数 335 例、定点当たり患者報告数が 6.3 となり、前月比 319.7%と流行が認められる。
・ A 群溶血性連鎖球菌咽頭炎は県全体で 220 例、定点当たり患者報告数が 4.2 の発生があり、全国の推移と比較するとやや少ないものの、前月比 107.0%で流行は続いている。
・ 感染性胃腸炎は県全体で 1073 例、定点当たり患者報告数が 20.2 の発生があり、全国の推移と比較するとやや少ないものの、前月比 184.5%で発生が増加傾向になっている。
・ 伝染性紅斑の発生は、県内では 24 例、定点当たり患者報告数が 0.5 となっており、全国の推移と比較して少ない状況にある。
・ 基幹定点疾患のうちマイコプラズマ肺炎は、県内では 14 例、定点当たり患者報告数が 8.4 となっている。6-8 週は減少したかにみえたが、9 週で再度増加しており、全国の推移よりやや多い発生状況である。

２　検討すべき課題

・百日咳の 10 歳代、学童期での増加について

〈事務局から〉

・結核の発生動向について

３　情報提供（月番委員専門分野から）

・第 128 回日本小児科学会学術集会が 2025/4/18-4/20 にポートメッセなごやで開催予定です。

４　その他（感染症対策推進課から）

（国通知・事務連絡）

・梅毒対策の啓発リーフレットについて（情報提供）

・麻しん及び風しんの定期の予防接種に係る対応について

（県公表資料）

・ノロウイルス食中毒警報を発表しました

・麻しん（はしか）患者の発生に伴う注意喚起について

＜検討結果＞